



言語機能を中心としたコミュニケーションを支援し、  
患者様の食べる楽しみを提供します。



ST6名で、ママさんもパパさんも、  
新入職員も活躍しています！

『ことば』脳血管疾患による失語症や構音障害の患者様は当院にも多く入院されています。当院では全体構造法という訓練方法を取り入れ、患者様の「話す」、「聞く」力にアプローチしたりリハビリを行っています。患者様が日々すこしづつ言葉を話せるようになる姿を見ると、私たちも元気をもらえます！



SLTAの様子



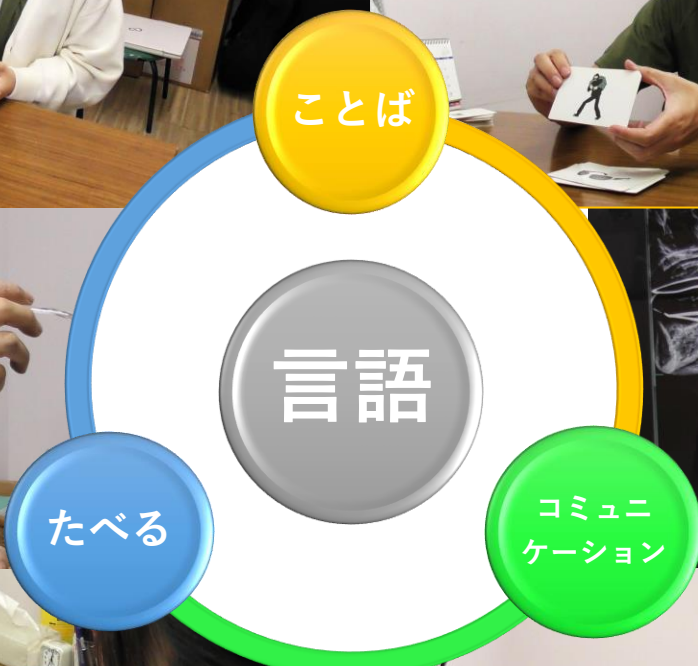
言語訓練の様子



直接嚥下訓練の様子



VF検査画像



VF評価の様子



嚥下訓練（頸部聴診）

『食べる』食事は私たちにとって欠かすことのできない日常動作の1つであり、楽しみでもあります。当院では医師のもとに嚥下造影検査（VF）を行っており記録した映像を見ながら嚥下学会の診断基準に沿って問題点を検出し、訓練方法を考えています。患者様一人一人に適した食事形態、トロミを提供することで患者様の食事の楽しみを支えます。

『コミュニケーション』STの専門とする言語障害や高次脳機能障害はコミュニケーションに欠かせないものです。患者様とのコミュニケーションはもちろん、他の医療従事者との連携もリハビリの大切な要素となります。当院では医師はもちろん、看護師や栄養士、歯科医師との連携のもとに週一回の嚥下回診を行っており、義歯の調整や嚥下訓練プログラムの立案を行っています。